

特別委員会

佐賀駅周辺整備調査 特別委員会

7月22日開催

《現地視察》コムボックス内にある観光拠点施設SAGA MADO、市道三溝線、佐賀市文化会館及びSAGAサンライズパークの現地視察を実施。



SAGA サンライズパーク現地視察の様子

8月18日開催

〔説明〕 佐賀駅南口暫定駐車場の料金収入が新型コロナウイルス感染症の影響で3月から減少し始め、4、5月と大きく減少した。6、7月は若干持ち直したが、目標には到達していない状況である。

旧西友駐車場敷地の開発については、新型コロナウイルス感染症が拡大し、当初のスケジュールどおりの実施が困難となったが、将来の開発や投資に意欲がある事業者が散見されることが判明したため、情報交換を継続して行い、開発事業者の公募時期を見極めたい。また、開発条件の設定等の支援を委託し、できるだけ早い段階で開発事業者の公募が始めるよう準備したい。

佐賀駅前北口広場の整備については、工事を早期に完了するため、車両の乗り入れ等を遮断して工事を行いたい。混乱を招くことがないよう、市民への広報を行っていききたい。

市道三溝線の整備については、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会のメイン会場であるSAGAサンライズパークへのアクセス道路として、現状の道幅での通行空間の再配置を行い、安全の確保はもとより、にぎわいづくりの視点も入れた整備を予定している。

〔質問〕 佐賀駅南口は大変重要な地域であり、大きな玄関口であるため、その役割に大いに期待もするし、開発は成功裏に終わってほしい。コムボックスのオープンで一定のにぎわいは見せているものの、想定する状況にはまだ到達していないと思われるため、コムボックスの現状等の分析を含め、全体的な動きを踏まえた検討が必要ではないか。

〔答弁〕 佐賀駅周辺は、現状で年間約1、200万人の動きがある。今後、開発を進めることによって、さらに大きな集客効果をもたらすことが可能であるため、市内の地域経済の活性化につながるような開発を行いたいと思っている。本事業を必ず成功させ、本市の地域経済の活性化に結びつけていきたい。

〔意見〕 これから佐賀駅北口、市道三溝線さらに佐賀駅南口の開発が進められることとなる。今後補正予算等も上がって

ると思うが、議会に対しても随時情報提供を行い、切れ目のないような開発をお願いしたい。

〔質問〕 市道三溝線の舗装は、どのような材質を使用するのか。

〔答弁〕 アスファルト舗装の上いろいろな模様をつけることができる、プリン舗装という工法を検討している。

〔意見〕 舗装材がまぶし過ぎるとか、雨の日は滑りやすいなど、実際に施工してみないとわからない部分もある。実例を示すなど、わかりやすい説明に努め、近隣住民からの意見聴取に取り組み、耐久性についてもしっかりと検討してほしい。

水害対策調査特別委員会

8月17日開催

〔説明〕 林地崩壊防止事業は、激甚災害に伴い集落等に隣接する林地に崩壊等が発生し、人命財産等に直接危害を及ぼす恐れがあるものについて、再度の災害を

防止するために行う事業で、過去5年間では平成30年度のみ実施。

農林地崩壊防止事業は、自然災害によって崩壊または崩壊の恐れがある林地で、人家及び公共施設に危害を及ぼす危険があるものの復旧事業のうち、国庫補助の対象外のものに対し県が補助金を交付する事業で、過去5年間では3か年度実施。

林道災害復旧事業は、本市が管理する林道が自然災害で被災した場合に、迅速かつ確実に復旧するために行う国庫補助事業である。7月末時点で、平成30年災は発生した93件のうち60件の工事が完了。令和元年災は発生した20件のうち1件の工事が完了。令和2年災は対象となる林道災害は発生していない。

公共土木施設災害復旧事業は、河川、道路、下水道、公園等の公共土木施設の災害で、1か所の事業費が60万円以上が対象。平成30年災は発生した62件のうち58件の工事が完了。令和元年災は発生した19件のうち2件の工事が完了。令和2年災は現在10件発生し、今後災害査定を受ける予定。

農地・農業用施設災害復旧事業は、農地及び農業用施設の災害で、1か所の事業費が40万円以上が対象。平成30年災は発生した993件のうち352件の工事が完了。令和元年災は発生した269件のうち29件が契約済。令和2年災は現在87件発生し、今後災害査定を受ける予定。



林地崩壊現場（三瀬村中鶴地区）

急傾斜地崩壊防止事業は、降雨や地震などに伴い発生するがけ崩れに対し、崩壊防止施設を設置し、急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護する事業である。令和2年度は6か所を予定。被災後の工事だけではなく、事前の対策工事としても実施できるが、事業費の12.5%を申請者が負担する必要があるため、被害が出た後に申請される方が多い。

〔質問〕災害復旧工事全般で契約は進んでいるが、工事の進捗が思わしくない印象である。施工業者はかなり多忙と思うが、市の現状認識はどうなのか。

〔答弁〕農地・農業用施設の平成30年災は発生件数993件のうち8割が富士町で、工事は主に町内の業者が頑張っており、現状で4割から5割の復旧が完了していると思われる。令和元年災の発生件数269件の中では大和地区が多く、工事が早く終わるよう、地区を考えながら進めている。

〔質問〕平成30年災の多くは富士町だが、一業者で複数工事を抱え、資機材や人手が不足し、工事が思うように進まないという状況が発生しているのではないか。

〔答弁〕富士町の業者数は以前より少なくなつたと聞いているが、令和元年度末には全て契約が済み、現在、鋭意努力してもらっている。新型コロナウイルスや猛暑により非常に苦しい面があり、また、7月の長雨で施工した部分が崩れたり、工事ができなかったという事も聞いているが、これから秋にかけて本格的に工事を進捗していただけるものと考えている。

令和2年度議会報告会 中止のお知らせ



写真は昨年度開催の様子

市議会だより第67号で令和2年度議会報告会の延期をお知らせしていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来場者及び関係者の健康、安全に配慮し、開催を中止することにしました。ご理解のほど、よろしくお願ひします。